

27	生活文化スポーツ局	東京 2025 世界陸上・東京 2025 デフリンピックに向けた準備
事業概要	「TOKYOスポーツレガシービジョン」(令和4年1月策定)、「ビジョン 2025 スポーツが広げる新しいフィールド」(令和5年2月策定)及び「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」(令和7年1月策定)に基づき、東京 2025 世界陸上及び東京 2025 デフリンピック(以下「両大会」という。)の成功に向け、関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。 また、両大会の成功に向けては、都民・国民からの信頼が重要であり、国際スポーツ大会のガバナンスや情報公開、都の関与の在り方などについて、有識者の意見を反映した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を令和4年12月に策定・公表した。	
これまでの経過	1 東京 2025 世界陸上競技選手権大会 令和4年7月、世界陸上競技選手権大会の令和7(2025)年の開催地が東京に決定した。 令和5年7月、東京 2025 世界陸上の大会運営組織である一般財団法人東京 2025 世界陸上財団((令和6年4月より、公益財団法人に移行。以下「世界陸上財団」という。)が公益財団法人日本陸上競技連盟(以下「日本陸連」という。)により設立された。 同年11月、世界陸上財団において、「大会開催基本計画」、12月に「財政計画」を公表した。 大会準備・運営を着実に進めるため、世界陸上財団が大会準備・運営に関すること及びガバナンス確保等の適切な組織体制の構築に関することを担い、都はそれらに対する必要なサポートを行った。 また、都、世界陸上財団、日本陸連の三者共同で外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、世界陸上財団の予算及び契約調達事務の適正な執行を確認した。 世界陸上財団は、令和6年5月1日から1か月間を「500 Days to Go! 開催まであと500日!」キャンペーン期間とし、東京 2025 世界陸上ファン ID 登録の受付を開始するとともに、チケット販売概要、ボランティア募集の概要及び大会ロゴを発表した。同年8月に、大会競技日程が発表され、チケットの先行販売を開始し、同年9月には、ボランティア募集要項を発表した。 2 東京 2025 デフリンピック 令和4年9月、デフリンピックの令和7(2025)年大会の開催地が東京に決定した。 令和5年2月、一般財団法人全日本ろうあ連盟(以下「全日本ろうあ連盟」という。)により「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」が設置され、大会準備運営について、都や関係者との情報共有、調整・協議を実施した。 同年4月、全日本ろうあ連盟や公益財団法人東京都スポーツ文化事業団(以下「事業団」という。)において、運営組織が設立された。 都と全日本ろうあ連盟は、大会準備運営にかかる業務の分担を行っている。大会開催に係る国際ろう者スポーツ委員会の窓口などの役割を、全日本ろうあ連盟が担い、競技・会場運営などの運営実務を、事業団が担っている。 また、都、全日本ろうあ連盟などで外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認した。 同年8月に大会ビジョン、実施競技、競技会場等を示した「大会概要」を公表、同年9月に大会エンブレムを決定した。 同年11月、「大会開催基本計画」、12月に大会開催に必要な計画額をまとめた。 令和6年3月には、より多くの方々や企業等に参画していただき、一緒に大会を創り上げていくための取組として、寄附及び協賛の受付を開始した。	

	国際手話人材の裾野拡大を図るため、東京都国際手話普及促進事業を実施し、令和5年度は延べ331名の受講費用を助成した。 令和6年5月から7月まで、クラウドファンディングによる寄附の取組を実施した。 同年6月、各自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」を結成し、都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」を大会公式マスコットとした。 同年9月、国立大学法人筑波技術大学と協働して、大会の準備・運営に取り組むため、事業団において連携協定を締結した。 3 2025年に向けた取組 (1) ビジョン2025の実現に向けた取組 両大会を通じ、スポーツの力によって東京の未来を創るため、東京都が目指す姿を「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」としてまとめ、令和5年2月に公表した。 また、本ビジョンの実現に向けて、両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などを「ビジョン2025 アクションブック」としてまとめ、令和6年1月に公表した。 (2) 気運醸成 令和5年8月に、両大会の特設サイトを開設したことに加え、世界陸上の開催2年前にはシンポジウムを開催し、デフリンピックの開催2年前には、きこえる・きこえないに関わらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」を実施した。 また、同年9月、デフリンピックでは、子供たちの投票により大会エンブレムを決定した。同年10月には幅広い世代に訴求力のある応援アンバサダーを起用したほか、学習ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」やダンス楽曲「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」を制作し、イベント等で活用した。 令和6年度は、5月にデフリンピックへの関心や共生社会への理解促進に向けてトークショーを開催したほか、同大会開催500日前となる7月にはアンバサダーとデフアスリートによる特別授業を行うとともに、学習ハンドブックを都内小学校へ約34万部配布した。 世界陸開催1年前にあたる9月に、大会の気運を高めていくために「東京2025 世界陸上 1 years To Go!」を開催した。 (3) ユニバーサルコミュニケーションの促進 2025年を契機に、『いつでも・どこでも・誰とでも』つながるユニバーサルコミュニケーションを促進するため、令和5年6月に、障害当事者の声を聞きながら技術開発を促進するためのスタートアップ企業によるピッチコンテストを実施した。また、同年10月には「CEATEC2023」等の展示会を活用したPRを行うとともに、競技会場等における技術活用の実証を行った。
現在の進捗状況	1 東京2025世界陸上競技選手権大会 世界陸上財団は、令和6年10月にスペシャルアンバサダーとアスリートアンバサダーを決定した。令和7年1月には、大会のモットーやコアグラフィックス、キャッチコピーを公表し、チケットの一般販売を開始した。さらに、同年1月に、公式マスコットデザインを公表してネーミング投票を開始し、同年2月にネーミングを「りくワン」に決定した。 また、世界陸上財団において、令和6年11月より募集を開始したボランティアは、令和7年3月に3,100人の採用を決定した。 同年3月には、東京都と世界陸上財団が協働して、持続可能な航空燃料（SAF）の原料となる廃食用油回収の取組を行うことを公表した。 都は、大会開催基本計画に基づき、大会準備・運営を着実に進めるため、世界陸上財

団に対する必要なサポートを引き続き実施している。

2 東京 2025 デフリンピック

令和 6 年 9 月、大会の入賞メダルのデザインを小中高生による投票で決定することとし、同年 11 月にメダルデザインが決定した。

同年 11 月、各国選手団の団長が集まる選手団団長セミナーを開催し、東京産食材の提供や都伝統工芸品の贈呈、東京の観光資源などの PR を実施した。

さらに同月に、競技会場等で活動するボランティアの募集を開始し、令和 7 年 3 月に抽選で、3,500 人を当選者として決定した。

令和 7 年 2 月、マラソン会場を含め、追加の競技会場及び練習会場について決定した。

また同月、キャッシュレス募金による寄附の取組を開始した。

令和 6 年度東京都国際手話普及促進事業では延べ 217 名の国際手話講座の受講費用を助成した。

「大会開催基本計画」に基づき、大会運営組織と連携し、競技・会場運営、宿泊・輸送、式典、デフリンピックスクエアなどの準備を進めるほか、ボランティア研修を実施する。

3 2025 年に向けた取組

(1) ビジョン 2025 の実現に向けた取組

令和 7 年 1 月、「ビジョン 2025 アクションブック」について、内容をより充実させ、「ビジョン 2025 アクションブック バージョンアップ」として公表した。

本ビジョンの実現に向けて、各局等と連携した取組を展開するとともに、今後の取組事項や具体的な事業内容等に関する検討・調整を行っている。

(2) 気運醸成

令和 6 年 11 月のデフリンピック開催 1 年前イベントでは、デフアスリートや応援アンバサダーをゲストに招き、メダルデザインや手話表現をベースに動きで応援を伝える「サインエール」を発表した。また、子供スポーツ体験教室を開催し、きこえる・きこえないにかかわらず子供たちがアスリートとふれあい一緒にスポーツを楽しみながら、大会の魅力に触れてもらう場を提供した。引き続き、区市町村主催のイベント等における両大会の PR を通じて、両大会の概要や開催意義等を多くの都民にわかりやすく発信する等、大会の気運醸成に取り組んでいる。

(3) ユニバーサルコミュニケーションの促進

ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を進めるため、都庁舎をはじめとする都有施設において、リアルタイムで音声が多言語で表示する透明ディスプレイを設置した。令和 7 年 2 月には、大学生と協働し、デジタル技術を活用して音声等の言語をみえる化し、きこえる・きこえないに関わらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」を運営した。引き続き、事業者等と連携し、展示会などを活用した PR を行うとともに、競技会場等における技術活用の実証を行っている。

今後の見通し	両大会について、関係者と連携し、「大会開催基本計画」に基づき、引き続き大会の成功に向けて準備を進め、大会を成功させる。 また、2025 年に向けて、以下の取組を行っていく。 ・ビジョン 2025 の実現に向けた取組 引き続き、各局等と連携して今後の取組事項や具体的な事業内容等に関する検討・調整を進めていく。 ・気運醸成 両大会を通じて、スポーツへの関心や共生社会への理解を一層深めることができるよう、様々な取組を進めていく。あわせて、区市町村と一体となった取組を引き続き展開していく。 ・ユニバーサルコミュニケーションの促進 スタートアップ企業と協働するなど、事業者の技術開発や社会への普及を促進していくとともに、競技会場での技術活用に向けて実証や関係者との調整を進めていく。		
問合せ先	スポーツ推進本部国際スポーツ事業部国際大会課	電話	(世界陸上に関すること) 03-5388-3652 (デフリンピックに関すること) 03-5320-6285 (ビジョン 2025 の実現に向けた取組に関すること) 03-5388-3849 (気運醸成・ユニバーサルコミュニケーションの促進に関すること) 03-5320-7990